

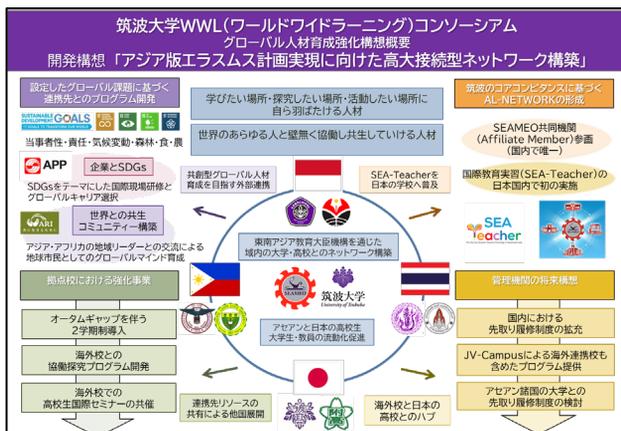
令和8年3月18日
国立大学法人筑波大学

附属坂戸高等学校における「グローバル共生教育」強化の方針
大学構内への附属学校学習拠点設置について

- ☆ 附属坂戸高校の令和9年度以降に入学した生徒を対象として、大学構内に、高校生が授業を受けることのできる学習拠点を設置します。
- ☆ 高大接続科目の履修や、大学教員・大学院生・大学生からのアドバイスを受けながら高度な探究活動を進めたいと希望する附属坂戸高校の生徒は、2・3年次において、大学構内に設置された学習拠点をベースに授業を受けます。
- ☆ 生徒の興味関心に応じて、大学の授業（高大接続科目）を組み込んだ、生徒一人ひとり違う時間割を作成、総合学科の特徴をいかした個別最適な学びを実現します。
- ☆ 学習拠点に通う生徒は大学の図書館や体育施設、ネットワークなどを大学生と同じように利用することができます。
- ☆ 生徒は多くの大学の留学生との交流を通して、異文化理解を深めるとともに国際的な課題への関心やキャリア意識を高めることができます。このような学びは「海外で活躍する自分」という将来像を描くきっかけとなり、グローバルキャリアの形成につながります。

【附属坂戸高校のグローバル共生教育（実績例）】

○文部科学省WWL事業



令和6年度～令和8年度文部科学省WWL事業
グローバル人材育成強化構想

第2回インドネシア日本
ユースSDGsフォーラムを開催

○SEA-teacherパイロットプロジェクト

SEA-Teacherプロジェクトは、東南アジア教育大臣機構SEAMEO(Southeast Asia Ministers of Education Organization)が行う、各国大学間交換教育実習(Internship Program)です。教員養成課程の中で重要な必修科目である教育実習を、東南アジア地域内で国境を越えて行っています。

SEAMEO における国内唯一の提携機関(Affiliate Member)である筑波大学には、当初より参加打診があり、2020年2月に附属坂戸高校が協力校として日本ではじめて参画し、筑波大学国際局との連携によりパイロットプロジェクトとして実施しました。COVID-19の影響で、3年間中断していましたが、2023年2月に再開し、2026年2月に5回目の受入を行いました。

教育実習生の授業は英語で行われますが、生徒達はいつもと違った雰囲気を楽しみながら、積極的に授業に取り組んでいます。



○IBDP (国際バカロレアディプロマプログラム認定校)

附属坂戸高等学校は平成29年2月にIBO (国際バカロレア機構) より、IBDP校として認定され、平成30年度にIB一期生が入学しました。卒業生の多くは海外の大学へ進学しています。

海外大学進学先

University of the Arts, London (U.K.) KU Leuven (Belgium)
Berlin International University of Applied Sciences (Germany)
Arizona State University (USA) Hawaii Pacific University (USA)
Temple University (USA) Thompson Rivers University (Canada)
University of British Columbia (Canada) Monash University (Australia)
University of Western Australia (Australia) 北京外国語大学 (中国)
Monash University Malaysia (Malaysia) 国立台湾大学 (台湾)



○IBCP (国際バカロレアキャリア関連プログラム候補校)

附属坂戸高等学校は令和8年2月にIBCP校の候補校となりました。国公立高校として、はじめての認定校に向け、準備を進めています。



【本件に関する問い合わせ先】

- ◆ 附属坂戸高等学校の教育に関すること
筑波大学附属坂戸高等学校
E-mail: fsakadokou@un.tsukuba.ac.jp
- ◆ 取材・報道に関すること
筑波大学広報局報道担当
E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp